

日本労働年鑑 第24集 1952年版

The Labour Year Book of Japan 1952

第一部 労働者状態

第二編 雇用と失業

第一章 雇用

第一節 就業者の動態

一、生産年令人口数の動態 第30表のように、満一四才以上人口(生産年令人口)総数は一般に増加の傾向にある(単位一、〇〇〇人)。

一九四九年平均	五五、四〇〇
一九五〇年上半期平均	五五、八七〇
一九五〇年下半期平均	五六、一六〇

(注)一九四九年およびそれ以前は、数え年一五才以上が生産年令人口として集計されている。

なお、人口問題研究所算定の男女別、年令別人口推計の結果に基く満一四才以上の一九四九年一〇月から一九五〇年一〇月までの自然増加率二・二七%を用いて、一九四九年の数字を満一四才以上の人口総数に修正すると五四、六三〇、〇〇〇人となる。

生産年令人口のうち労働力人口部分も男は増加の傾向にある(ただし季節的変動を考慮して比較せねばならぬことに注意)。

一九四九年上半期平均	二一、八一〇	一九四九年下半期平均	二二、二五〇
一九五〇年上半期平均	二一、九二〇	一九五〇年下半期平均	二二、三八〇

ところが、女は減少の傾向にある。

一九四九年上半期平均	一四、三八〇	一九四九年下半期平均	一五、二五〇
一九五〇年上半期平均	一三、八八〇	一九五〇年下半期平均	一四、九一〇

一九四九年は前年に比べ、男女ともに労働力人口が増加傾向にあったのだから一九五〇年における女の労働力人口減少傾向には注目する必要がある。

つぎに、非労働力人口部分は男女とも増加の傾向にあり、一九四九年とまったく反対の傾向が明らかにされている。

	一九四九年平均	一九五〇年平均
男	四、三六〇	四、四九〇
女	一四、一七〇	一四、八一〇

そして、増加倍率は男一・〇三倍弱、女一・〇五倍弱で、女の方がやや高い。

すなわち満一四才以上(生産年令)の女は、労働力調査に定義されているところの「労働力人口」部分が減少し、「非労働力人口」部分が男より顕著に増加している。満一四才以上(生産年令)の男も、女に比べ緩慢ではあるが「非労働力人口」部分が増加しはじめたと結論できる。

なお、生産年齢人口総数の動態を、第30表により、市部・郡部別にみると、それは、一九四九年にくらべ、市部で増加し、郡部で停滞する傾向にある。この場合、総人口は市部・郡部ともに増加していることに注意しなければならない。

「労働力人口」部分も、市部では男女ともに増加し、郡部では男女ともに停滞ないし減少する傾向にある。

一方、「非労働力人口」、部分は、市部・郡部ともに増加の傾向にあり、とくに郡部では季節的変動が激しい。

二、就業時間別就業者数の動態 全産業における、就業合計時間別（労働力調査の調査期間中にした仕事のすべてに費した時間の合計別）就業者数の動態は、第31表のとおりである。これによると、年間平均では一九時間以下の就業者が一九四九年にくらべて増加している。また、四九時間以上の就業者が、つぎのように減少している（単位一、〇〇〇人）。

一九四九年平均	一五、九三〇
一九五〇年平均	一五、六五〇

すなわち、全産業・年間平均に関するかぎり、一九五〇年はほぼ前年と同じ傾向をたどっているのである。

だが、農・非農別にみると、朝鮮に戦争が勃発した六月末を境にして、とくに非農林業の就業合計時間別就業者数が目立った変化を示している（第32表を参照）。まず、一九時間以下の就業者が、下半期に減少した。

一九五〇年上半期平均	九四〇
一九五〇年下半期平均	八九〇

これに反して、四九時間以上の就業者は、下半期に増加した。

一九五〇年上半期平均	四、〇九〇
一九五〇年下半期平均	四、五七〇

これは、戦争勃発にともなう新しい傾向といわなければならない。

それにもかかわらず、農林業においては、三四時間以下の就業者がますます増加している。

一九四九年平均	五、三二〇
一九五〇年平均	六、〇三〇

農林業は季節的変動が激しいため、直接、上半期と下半期を比較することはできないが、それぞれ前年同期にくらべても、一九五〇年は三四時間以下の就業者が増加している。

一九四九年上半期平均	五、一一〇
一九四九年下半期平均	五、五四〇
一九五〇年上半期平均	六、四七〇
一九五〇年下半期平均	五、六一〇

なお、男女別にみると、第33表のように、三四時間以下の就業者の増加は女において相対的にいちじるしい。すなわち、一九五〇年を前年にくらべた増加倍率は、男一・〇三倍強、女一・〇九倍強となつている。

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1952年版(第24集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
